

知的財産活用法探る

岐阜市でシンポ 鮫島弁護士が講演



知的財産を活用した先進的な自社の取り組みを紹介するパネリストら＝岐阜市司町、みんなの森ぎふメディアコスモス

「知的財産ビジネスシンポジウム in 岐阜」が2日、岐阜市司町のみんなの森ぎふメディアコスモスで開かれ、加茂郡八百津町出身の小説家池井戸潤さんの小説「下町ロケット」に登場する弁護士モデルとして知られる弁護士・弁理士鮫島正洋さん(53)＝東京都の基調講演と企業経営者らのパネルディスカッションが行われた。

中部経済産業局主催、岐阜新聞・ぎふちゃんなど共催。ものづくりにおける特許技術などの知的財産の活用方法を学ぼうと、中小企業

業の経営者、知財担当者ら約200人が参加した。

鮫島さんは「中小企業の知財経営の導入・定着に向けて、ニッチ

トップを目指すための知財戦略」と題し講演。「先行特許が少ない小規模市場を選び、研究開発の成果を特許化す

ること、他社の参入を防ぎ市場を独占することが成功の鍵」と強調した。

パネルディスカッションでは、特許や商標登録の取得に積極的なシリコン加工販売業者の取り組みを紹介し、タナック(岐阜市元町)の棚橋一成社長(62)と、特許取得融資を推進する岐阜信用金庫成長戦略部の若山光将部長(56)らが先進的な取り組みの実例を紹介した。